

■勉強会や研修にも参加しています

議員に当選させていただいて3年。継続的に勉強会や研修に参加させていただいています。

4月26日・27日はWOMAN SHIFT 全国研修に参加させていただきました。45歳以下の女性議員で構成される団体で、政策提言ができる女性議員を増やすことをコンセプトに活動されています。



全国研修では石川県金沢市のこども総合相談センター、福井県鯖江市のJK課(女子高校生によるまちづくり)やオープンデータの取り組みを視察させていただくとともに、多くのワークショップを行い、お互いの議員活動について情報交換を行いました。

オープンデータの取り組みについて視察させていただいた内容は、6月定例会の一般質問にさっそく活用いたしました。その他学んだことも、今後しっかりと生かしてまいります。

■女性議員を増やそう！動画に出演



「女性議員のブランディング」チーム発表資料

検索

昨年度、オンライン科生として所属していた日本政策学校と、前述のWOMAN SHIFTで実施された「女性議員を増やそうプロジェクト」のブランディングチームの取り組みに協力させていただき、女性議員のブランディング動画に出演させていただきました。

市区町村議会の女性議員の割合は2016年時点で12.8%とされています。現状においては、女性議員の増加が、多様な意見が議会に反映されるための一つの手段であると考えています。



ご意見・ご要望をお聞かせください

しまづはるか後援会

TEL/FAX:079-439-2733

〒676-0071
高砂市伊保東二丁目2-23

<http://shimazuharuka.com/>
E-mail: shimazu.takasago@gmail.com



ブログQRコード

日々の活動をSNSやブログで発信しています



@shimazu_haruka



Facebookページ: 島津明香



Facebookページ
QRコード

【ブログ】:しまづはるか活動報告 <http://shimazuharuka.com/blog>

しまづはるか 後援会報

15号 2017年夏



6月定例会が6月8日から20日の13日間の日程で行われました。今回の後援会報では、6月定例会の内容を中心に、2017年春の活動をお知らせいたします。

また、2014年9月に当選させていただいてから3年が過ぎようとしています。4年目に向けて、これまでの経験を生かしつつ、常に成長しながら取り組んでいきたいですので、引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

6月定例会 議案質疑

■鹿島中学校への防球フェンス設置

鹿島中学校において、2016年12月、2017年5月と相次いで部活動等における野球の打球が運動場を越え、敷地外に飛び出すという事案が発生したことを受け、防球フェンスを設置するための予算が提案されました。二度とも、市教育委員会が打球の落下先に対し損害を賠償しており、抜本的な対策が必要と判断されたとのことです。



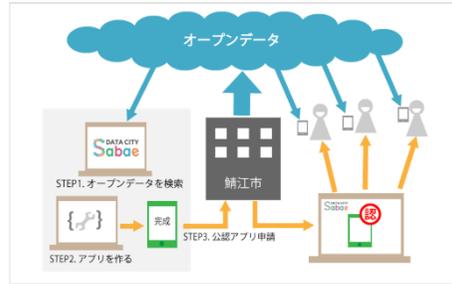
この件について私は本会議にて、過去二回の対応を確認するとともに、市内の他の中学校の状況を伺いました。他の中学校でも、校外に打球が飛び出すケースはあるとのことで、対応を検討されるとのことです。また、バッティング練習についてはバッティングゲージや防球ネットを使用するという事でした。

安全のための対策や地域の方々の理解は必要である反面、生徒の方々の練習が最大限できる環境を整えることも必要と考えます。バランスを取りながらの環境整備を求めました。

オープンデータの推進について

■オープンデータ先進地を視察しました

4月27日、WOMAN SHIFT全国研修会にて、福井県鯖江市のオープンデータの取り組みを視察させていただきました。オープンデータとは、機械判読に適したデータ形式で、二次利用が可能な利用ルールで公開されたデータであることが条件とされています。



▶鯖江市のオープンデータのしくみ

鯖江市では行政のもつデータを積極的に開示し、民間利用を促進させるとともに、市民の方々にも有効活用いただいていた。

■先進地視察を生かして一般質問

オープンデータの促進については、2012年の総務省からの通知で、地方自治体でも推進することが求められています。市民の方々が自由に情報を利用できる環境をつくるためにも、高砂市のオープンデータ促進について質問しました。

島津: 高砂市でのオープンデータ促進の見解を伺いたい。

市長: 今年度の行政経営プラン実行計画書でも、行政情報の見える化やオープンデータ化を進めることとしており、データの提供を進めることにより、市民がオープンデータに係るメリットを実感する機会を提供するとともに、行政の効率化、高度化を図っていきたい。

島津: 現在でも例えばAEDの設置場所一覧などはPDFでは公開されており、これをCSV等二次利用が可能なデータ形式に変換し、公表することについては特に時間がかかることとも思えない。今後検討を行うにあたって具体的にどのようなことを検討されるのか。

担当者: 現在市が公開しているデータについて、二次利用ができる形式へデータ変換が可能かどうかの検討を行い、可能なものから特定のアプリケーションに依存しないデータ形式での公開へと進めたい。また、取り組み方針や制度設計、体制的な整備の検討も進めたい。

若年性乳がんへの対応について

■高濃度乳房への検診結果通知について

日本人の4割が該当すると推定される高濃度乳房は、乳がん検診の際、マンモグラフィ検査では乳房全体が白く写ってしまい、がんが特定されにくいという懸念があります。自治体により、高濃度乳房であることを通知しているか否かは様々であり、厚生労働省も今年6月、ガイドライン作成に向けて動き出す決定を行っています。

高砂市については、現状は高濃度乳房についての通知は行っていないということです。ただ、検診を受けられる方の知る権利は保障する必要があるという観点もあり、今後、国や他の市町について研究しながら検討を進めるとのことでした。

■若年層の乳がん検診について

現在、高砂市で行われている乳がん検診は、40歳以上を対象としたマンモグラフィ検査となっています。これは、厚生労働省のガイドラインに則ったもので、乳腺の発達している30代以下はマンモグラフィ検査ではがんが発見しづらいこと、超音波検査では死亡率の低下が保証されていないことなどが背景にあると考えられます。しかしながら、それは若年性乳がん予防に対する施策を行わない理由にはなりません。そのような思いから、市の考え方を伺いました。

島津: 若年層の乳がん検診は、他市では超音波での検診をおこなっている例もある。高砂市の考え方を伺いたい。

市長: 30代を対象として乳がん検診については、高砂市では超音波検診を行う体制が整っていない。今後も国や県、他の市町村の状況を考慮するとともに、医師会等とも協議を行いながら検討したい。

島津: 検診を行うことが困難であっても、例えば検診受診や予防の啓発活動を行うこともできるかどうか。

担当者: 一人ひとりが判断できるように情報提供を行うことは大切である。今後も市内の対象者に有効な情報を提供していきたい。

